神戸空港島の利活用に関する意見

令和８年 11 月 19 日

神 戸 商 工 会 議 所

2026 年 11 月 19 日

神戸市長
　久　元　喜　造　様

神戸商工会議所
神戸空港委員長　吉　井　満　隆

神戸空港島の利活用に関する意見

拝啓　時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素より、地域経済の振興ならびに当商工会議所事業に対して格別のお力添えを賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、神戸空港では 2025 年 4 月から国際チャーター便が就航し、これまで大阪・京都に大きく後れを取っていた神戸市内へのインバウンド旅客数が大きく増加するなど、国際線就航による効果が生まれています。

今後 2030 年には国際定期便の就航が予定され、神戸空港を起点とした人流拡大の更なる加速が見込まれる中、神戸空港島の利活用を神戸経済活性化の起爆剤とするためには、神戸が「世界から選ばれる街」となり、神戸空港が「世界から選ばれる空港」となることを目指して、空港の位置付け・活用策を大きな視点で検討する必要があります。

こうした中、神戸市におかれては、「神戸空港島将来構想（仮称）」の策定を進めておられるところですが、当商工会議所におきましても神戸空港委員会メンバーを中心に、会員企業等から神戸空港島の利活用による神戸経済への波及効果を期待する声が多く挙げられており、この度、意見書を取りまとめました。

構想策定にあたっては、特に次の項目に留意し、国際都市・神戸のプレゼンスを高め、地域経済活性化に資する将来構想を策定願います。

敬　具

記

１．神戸経済の成長に資する新たな産業創出・誘致について

神戸空港島の未処分地利活用にあたっては、神戸の製造業が持つ高い技術力や、古くから地域の産業基盤を支え続けてきた港湾物流、神戸医療産業都市の企業等の集積といった強みを活かし、企業進出や投資、ビジネス交流の促進など、地域経済を再活性化する産業の誘致や施設整備を進められたい。

（１）航空機産業（MRO）のクラスター形成

航空機産業は神戸の『ものづくり』の強みと直結し、既存産業との技術的シナジーに加え、高度な技能を要する専門人材の雇用創出や、サプライチェーンを構成する市内中小企業への受注機会の拡大、若年層の技術者としての地元定着が期待される。

また、神戸空港が 2030 年に国際定期便の就航を控える中、神戸空港島に航空機の整備機能を備えることは、航空会社にとって国内での拠点選択上の魅力となり、就航路線の維持・拡大にも資することが見込まれる。

神戸経済の新たな成長を担う産業の育成に向け、先般、兵庫県・神戸市が共同で策定した MRO 等の航空機産業領域に関する地域産業クラスター計画を着実に実現されたい。

（２）陸海空複合一貫輸送拠点の形成および保税倉庫・工場・展示場の設置

隣接するポートアイランドの神戸医療産業都市には関連企業が集積しており、神戸港は、食品・医療・バイオ関連の貨物を多く取り扱っている。

これらの貨物を対象とした「陸海空」の複合一貫輸送拠点形成を進めることで、海上輸送によるコスト低減と高付加価値製品の航空輸送を１つの拠点で使い分けることが可能となる。

加えて保税倉庫・工場や展示場を設置することで、国際物流の利便性をさらに高めるとともに、神戸港将来構想で示されている「流通・加工・製造機能を集積した再輸出型トランシップ拠点の形成」を図り、ビジネス環境の魅力向上に努められたい。

２．神戸空港島へのアクセス機能強化を含む産業基盤整備について

いかなる産業を誘致する場合においても、神戸空港島へ通じるアクセスが神戸スカイブリッジの 1 本のみであることは大きな制約となっている。神戸空港島の利活用に関心を示す会員企業等からも、事故や災害、悪天候による通行止めが発生した場合に、空港島の孤立に対する懸念が示され、物流・人流への対応や、企業の BCP 対策（リダンダンシーの確保）の観点からも課題が大きいとの声が寄せられており、橋梁・トンネルや、ウォーターフロントエリア・淡路島などと接続する海路も含め、新たな空港島のアクセス手段について検討は必須である。

また、2030 年の国際定期便就航や今後の施設整備に伴い、空港島の利用者数は大幅に増加することが見込まれる。旅客の移動、従業員の通勤、貨物の輸送のいずれにおいても、現在のアクセス環境では対応しきれない事態が生じかねない。

以上のことから、神戸空港島において効果的な産業立地を実現するためには、アクセス機能の強化が前提であり、短期・中期・長期という時間軸を明示したアクセス整備に関するロードマップを空港島将来構想において示されたい。

【ロードマップ例】

短　期 （3 年先）	ポートライナー	既存インフラの機能強化 （輸送力増強、運行頻度向上）
中　期 （5 年先）	バス・BRT	連節バスの採用、走行空間の整備、道路拡張によるバス高速輸送システムの導入を検討
長　期 （10 年先）	新モビリティ等の活用、アクセス路の検討	地下鉄を含む中長期的な軌道系アクセス、次世代モビリティの活用可能性、橋・トンネルなど新たな空港島アクセス路の検討

３．進出企業の競争優位性を高める支援策について

神戸空港島に産業誘致を進めて行く上では、他地域と比較した立地上の優位性が重要となる。

都市・港と近接する神戸空港島の地理的優位性に加え、昨今の資材価格や人件費の高騰などにより、新たな投資に要するイニシャルコストが膨らむ進出希望企業に対して、コスト軽減策を講じることが効果的となる。

将来の都市価値・成長を見据え、土地利用に係る費用の補助や償還期間の長期設定、設備投資に係る税優遇など、国・兵庫県等の施策（地域産業クラスター計画関連含む）も活用し、工夫をはかりながら最大限のサポートを実施されたい。

加えて、企業の投資意欲・進出ニーズを踏まえ、官民連携での推進体制を構築されたい。

以　上